

平成26年度第2回さいたま市うらわ美術館協議会会議録

1 日 時 平成27年3月17日(火) 午後2時00分から午後4時00分

2 場 所 うらわ美術館会議室

3 出席者 市川会長 大久保副会長 小川委員 林委員 高橋委員 小林委員 久田委員 先崎委員 倉林委員

稲葉館長 山崎副館長 森田主幹 酒井主幹 下妻主査(書記)

4 次 第

開会

館長挨拶

議事

(1) 「平成26年度事業報告について」

(2) 「平成27年度事業概要について」

(3) 「その他」

閉会

5 議事内容

副館長 それでは、只今より、平成26年度第2回「さいたま市うらわ美術館協議会」を開会いたします。うらわ美術館協議会規則第3条の規定により、会長に議事進行をお願いいたします。

議長 よろしく願いいたします。本日は、委員9名が全員出席です。うらわ美術館協議会規則第4条による会議成立の要件の委員の過半数を超えておりますので、本会議は成立いたします。次に本会議は原則公開としていますが、傍聴を希望される方はおりません。では、お手元の次第に従い、進行をさせていただきます。

なお、本日の会議は、午後4時頃を終了予定と考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。「平成26年度事業報告について」の説明を事務局からお願いします。

事務局 (「平成26年度事業報告について」説明)

議長 只今の説明について、何か質問等ありましたらお願いいたします。

委員 企画展の「ボンジュール! フランスの絵本たち」展は立上げ館であり、

関連事業も含めると入館者数は1万人を超えています。一方、「ルーヴル美術館の銅版画展」はルーヴル美術館の名称が付くだけでもう少し入館者があると思いましたが。これは意外でして、もったいないことと思いました。絵本展と同じくらい集客力のある企画展がもう1本あれば、活況を呈してくると思います。

委員 「本のワークショップ」はこの美術館の特質である本と関連した大事な事業であると思います。日本にはあまりないのですが、本の歴史が長いヨーロッパでは本の装丁の研究が行われていて、ドイツの大学では本の装丁を専門に学ぶ学科があり見学する機会がありました。

このワークショップの講師は、どういう方ですか。

事務局 造本作家で、装丁家、版画家でもあります。造本教室を主宰され、定期的に個展、グループ展を開催し、雑誌も発行していて、うらわ美術館でも、作品を所蔵しています。当初よりワークショップのご指導をお願いしている方です。

委員 ドイツの大学の本の装丁を学ぶ学科は、美術系の大学の中にあります。うらわ美術館は面白い本をたくさん所蔵していますので、それと関連付けた「本のワークショップ」を行うと面白いと思います。「本のワークショップ」は、これまでも開催していますね。

事務局 はい。開催しています。「本のワークショップ」を開始した当初は、他の講師の方にもお願いしたこともありましたが、その後一貫してご指導をお願いしています。

委員 このワークショップは、1回の定員が24名ということなので回数を増やすとかして、もっと宣伝をした方がいいと思います。

委員 企画展の入館者数の目標は、どのくらいですか。

事務局 1本につき、目標は5,000名です。

委員 「サッカー展、イメージのゆくえ」展は、多くのマスコミが取り上げてくれたにもかかわらず、これだけの入館者しかありませんでした。「ルーヴル美術館の銅版画展」もルーヴル美術館と名称が入っていても、人は名前だけで動くものではないということだと思います。これは、大事なことだと思いますが、うらわ美術館はこういう事態にどう対処されますか。

事務局 「サッカー展、イメージのゆくえ」展は、当初マスコミには受けが良かったし、サッカーの街さいたまということでサッカー人口も多いので、かなりの入館者を見込めると思いました。しかし蓋を開けてみますと、サッカーをしている人の捉えるサッカーと、美術からみるサッカーとが一致しなかったことが課題となってしまいました。多くのサッカーファンは、有名なサッカー選手の写真やトロフィーやグッズが欲しいのであって、われわれとの齟齬があったと反省しています。

「ルーヴル美術館の銅版画展」もルーヴル美術館という名称で入館者を見込めると思いました。会期の途中で、入館者が少ないので広報にさらに

力を注ぎましたが、入館者増には結びつきませんでした。この展覧会は巡回展でございまして、他の館も入館者は少なかったようです。

市民の方がイメージするルーヴル美術館と、ルーヴル美術館のカルグラフィを結びつけ浸透させることができなかったということが課題として残っております。

これらの企画展はかなりの入館者を見込みましたが、結果は残念ながらその半数位になってしまったことは大いに反省しております。市民の方が描いている美術と我々が描いている美術というものを考え直していかなければならないと思っています。

委員 俳句の仲間で、「ルーヴル美術館の銅版画展」を吟行コースに選び、句会を開きました。他県から来て下さった方も含め皆さん、本当によかった、素晴らしい展覧会を紹介してもらいうれしいと感激し、評判のよい展覧会でしたので、観ていただけたらきっと皆さんに喜んでいただけたと思います。

事務局 確かに「ルーヴル美術館の銅版画展」は、ご覧になった方の評判はとてもよかったです。ルーヴル美術館にこういうものがあつたのですかとか、日本にいてルーヴル美術館の作品を観ることができるなんてと感激していらっしゃいました。

ここに来ていただくまでの我々の手立てが弱かったのか、または何かが違っていただけたのだと思います。

委員 「ルーヴル美術館の銅版画展」は、魅力ある関連事業と組み合わせて行えばよかつたのではないのでしょうか。

委員 「ルーヴル美術館の銅版画展」は、私も拝見しましたが良かったです。入館者数だけで、一喜一憂する必要はないですね。こういう展覧会をこれからも続けてほしいです。いいものが伝わっていけばいいと思います。

委員 私も仲間にこういう展覧会があつたらまた教えてほしいといわれました。

委員 多くのメディアが取りあげ、ご覧になった方は満足なさいました。しかし入館者数は目標の半分にしか達しないという状況は、美術館が危機的事態に陥っていくだろうという心配があります。これは、美術館の体力の問題だと思います。

議長 他に何かご意見等ございませんか。

では、次に議事の(2)「平成27年度事業概要について」の説明を事務局からお願いします。

事務局 (「平成27年度事業概要について」説明)

事務局 (平成27年度にHPのリニューアルを説明)

議長 只今の説明について、何かご質問等ありましたらお願いいたします。

委員 絵本展は毎年夏に開催することが定着していて、入館者数も多くとてもいいことだと思います。ご覧いただければ満足感を味わうことができ、二度三度と足を運んでもらえることと思います。

気になったのは仮称のタイトルです。行ってみようかと思わせる勢いのあるタイトルではありません。たとえば、「コレクションによる特別展―新所蔵・未公開作品を中心に」というタイトルでは、展示内容がわからず目的がはっきりしません。目玉をタイトルに入れてみるとわかりやすいと思います。「縫いと造形」展も漠然としています。たとえば、「刺し子」とか「刺繍」とか具体的に内容が想像でき、興味が湧くような人を呼び込めるようなタイトルにした方がいいと思います。

事務局 わかりやすく、行ってみようと思う展覧会名を考えていきたいと思いません。

委員 もう平成27年度のカレンダーは出来上がっているのです、大きな変更はできませんね。

事務局 はい。

委員 私も「コレクションによる特別展―新所蔵・未公開作品を中心に」は、内容のわかるタイトルをつけた方がご覧になる方もわかりやすいと思います。「縫いと造形」展は、巡回先を募っているということですが、もし見つからなくても単独で行う予定ですね。

事務局 はい。

委員 カレンダーの写真を見ると、行こうかなと思いますね。

委員 これと関連したワークショップはありますか。

事務局 「縫いと造形」展はギャラリーA、B、C室に展示し、D室はこれに関連した展示を行う予定です。関連のワークショップは現在のところ、考えてはございません。

委員 ワorkshopを行うスペースがないということですね。

事務局 はい。

議長 他に何かご意見等ございませんか。

委員 「縫いと造形」展をうらわ美術館で開催する強いコンセプトが理解できません。工芸を中心とする館で「縫いと造形」展を開催すると、みる側のイメージが繋がりやすいと思います。埼玉県内にはいくつかの博物館がある中でうらわ美術館での「縫いと造形」展はフィットしにくく、これまでの美術館の動きと少し違う印象を受けます。「サッカー」展はサッカーの街さいたまということで、美術とサッカーは結びつきにくかったという反省点はあるにしても、何かをしようという意気込みが感じられます。うらわ美術館で「縫いと造形」展を開催する強い意志を知りたいのですが。

事務局 「縫いと造形」展はうらわ美術館の基本方針である「ゆかり」と「本をめぐるアート」には該当しません。その方針だけに限ってしまいますと範囲が狭くなってしまいますので、二つの方針に関連しなくても開催していきましょうということで行っています。平成15年の「まどわしの空間」展もそういった展覧会で、美術館で遠近法を取り上げたところを見ていただけたと思います。なぜ、「縫いと造形」展なのかと問われますと、明確な理

- 由はございませんが、そういった違った要素を見ていただこうと思います。
- 委員 決してうらわ美術館を批判しているのではありません。美術館で何かを開催する際、時代性がありそれがタイトルにつながってくると思います。キャッチコピーがあって、それが縫いと結びついて造形になるのでしょうか。
- 委員 展示作品は、全部布ですか。
- 事務局 はい。
- 委員 ブックカバーはありますか。
- 事務局 いいえ、ありません。
- 事務局 ワークショップについてですが、今のところは計画していませんが、本日のご意見に基づいて中身をアレンジする余地はあると思います。
- 委員 布の本があればいいですね。
- 委員 コレクション展の三尾彰藍氏を存じあげません。どういう方ですか。
- 事務局 平成23年に亡くなられた、日本画家です。
- 委員 ご存命の頃、よく存じあげています。旧浦和にお住まいで、日展の会員でした。日展特選を2回、入選30回、その他数々の賞を受賞された方です。
- 委員 さいたま市民大学美術コースについて少し説明してください。
- 事務局 平成19～22年まで行っていた美術コースは、全5～8回、年度によって回数は異なりました。来年度のテーマは、「美術館探訪」ですが、これはこれまで実施した美術コースのテーマでもあります。開催中の展覧会を鑑賞しながらその概要について説明し、美術館の仕事、役割、作品収集、展示の仕方などわかりやすく興味を持ってもらえるよう構成を工夫しております。
- 委員 全6回通して出席するのですか。
- 事務局 1回で完結する内容ですが、受講条件は全6回に出席できる方となっております。
- 委員 修了証はあるのですか。
- 事務局 ございません。以前は修了証の発行があった時もありましたが。
- 事務局 生涯学習センターの事業として行っています。「教養コース」「さいたま文化コース」「科学コース」「文学コース」「歴史コース」などがございまして、市民の方々の高度で専門的かつ多様な学習要求にこたえとともに、自発的な学習活動を促し、豊かな生涯学習社会を築くことを目的としております。
- 委員 有料ですか。
- 事務局 はい。コースによって違うかも知れませんが一般的には1コース3千円位です。
- 委員 募集人数はどのくらいですか。
- 事務局 会場のキャパシティにもよりますが、50～80人位です。

- 委員 美術館コースは何人ですか。
- 事務局 50 人です。視聴覚室の定員が 50 人ですので。平成 22 年までの実績は、毎回定員を大幅に上まわり抽選で決めておりました。
- 委員 生涯学習センターの事業ではなく、美術館で市民大学講座を実施するのはどうでしょうか。
- 事務局 会場の問題があります。今回も視聴覚室を兼ねる D 室で展示に使わない時期を選んでいきます。本来でしたら、このような講座を実施できたらいいと思います。
- 委員 さいたま市民大学は、県の「彩の国いきが大学」に近いですか。
- 委員 県の方は校舎もあり、一年制課程・二年制課程・一年制専科コースで募集していてカリキュラムもきちんとしていますね。
- 委員 市民の方は、知識欲が旺盛です。美術館の企画で、絵の見方や、作品の特徴などの講座を行うと、興味が湧き関心も深まります。こういう講座で、美術館に親しんでもらうのも一つの方法かと思います。
- 委員 そういう方々を積極的に取込んで、「サッカー」展や「縫いと造形」展を開催するといいいのではないのでしょうか。でもそういうことを導入しようとしますと、人手やお金が必要となりますので、これからのうらわ美術館が心配です。
- 事務局 さいたま市民大学は、先ほども申しあげましたが生涯学習センターの事業ですが美術館の単独事業としても捉えています。
- 「縫いと造形」展の企画の発端は、裁縫雛型です。最終的には市立博物館に寄贈されましたが市民の方がお持ちでした。東京家政大学の前身である和裁学校が、生徒が着物一着縫うのに時間がかかるため、ミニチュア版で 20～50 着縫って訓練したそうです。使用する反物も少なくすみ、日本の和裁文化を創り出した経緯を知っていただくということが企画のきっかけです。この展示は裁縫雛型や刺し子やこぎん刺しなどの伝統的な縫いと、オノヨーコさんや宇梶静江さんや高橋よう子さんや師岡とおるさんなど現代作家の縫いとを対比させてみたいと考えています。なぜうらわ美術館で開催するののかの問いには、確かな答えはありませんが市民の方がお持ちだった縫い物から派生したで形でこのような展示ができますということだと思います。
- 委員 パッチワークも世界的コンテストがあります。こういうことに関わっている人々は相当いるはずですね。
- 委員 型紙も、裁縫教本など本というコンセプトと合わせて展示すれば面白そうですね。
- 事務局 はい。鯨尺も紙でできています。
- 委員 それは面白いですね。
- 委員 県や市の主催事業と違い、美術館の事業は美術の広がりの中で様々な力にしていくことができると思います。

議長 他に何かご質問等ございませんか。なければ次に議事の「その他」に移ります。事務局から何かございますか。

事務局 こちらでは何もご用意しておりませんので、委員の皆さま何かございましたらお願いします。

委員 「ブラティスラヴァ世界絵本原画」展は、今後も続ける予定ですか。

事務局 はい。現在のところはできる限り継続していきたいと考えています。

委員 近くの板橋区立美術館で、巡回したことはありますか。

事務局 いいえ。ございません。近くですと、千葉市美術館や足利市立美術館で開催しています。

委員 もし何らかの事情で開催できなくなったらどうしますか。

事務局 「ブラティスラヴァ世界絵本原画」展は、毎年開催しているわけではございません。国内巡回展の立ち上がり館になるのか最終館になるのかによって、2年続けて開催することもありますし、間が2年空くこともございます。「ブラティスラヴァ世界絵本原画」展に代わる企画としては、たとえば本年度ですと「ボンジュール！フランスの絵本たち」展を開催しました。このように「ブラティスラヴァ世界絵本原画」展以外にも夏休みの子ども向け企画としていろいろ候補も考えており、検討を重ねているところです。

議長 その他のことで、何かございませんか。

委員 長年この美術館を引っ張ってきた学芸員が、この3月で定年ですね。この後どうなるのか大変心配しています。あまりに学芸員の数が少ない中で、年4つの企画です。企画展、ひとり1本の担当は危険です。余裕がないと、いいアイデアは浮かびません。大勢でいろいろ議論する中で、思いもかけないいいものが生まれてきます。

委員 若い人の力を、入れることはできないのでしょうか。

委員 市立の美術館は全国にたくさんありますが、うらわ美術館は県の美術館とすみ分けていて特色のある大切な美術館です。しかし市立の美術館の中でも、スタッフの少ない小さな美術館です。結局予算の問題で、予算が少ないと人をつけることが難しくなります。このような状況の中で、毎年自主企画を開催してこられたということはすごいことと思います。これからもぜひこの流れだけは、皆さんで守っていただいてどんどん面白い企画をしていただきたいと思います。それがこの美術館の良さでもあり、強さでもあると思います。これだけのスタッフで行わなければならないとなった時、どういう方法で行うかが問題です。今までも行ってきたので、ぜひこれからも続けてください。

議長 時間もまいりましたので、このあたりで終了させていただきたいと思います。委員の皆さまには、大変貴重なご意見等をいただきましてありがとうございます。それでは、本日の協議会をここで終了させていただきます。